

人権コラム 心、豊かに

◆ 肌の色、どんな色

「うすだいたい」、「パールオレンジ」。クレヨンなどにこれらの名前で表記される色、2000 年前後までは「はだ色」と書かれていました。

韓国では「はだ色」表記に関して、国家人権委員会が 2001 年に陳情を受けています。委員会は「はだ色」という表記（表現）は、韓国憲法第 11 条の平等権を侵害するといった理由から、「はだ色」を定めた技術標準院に改正勧告を行いました。

いま、あなたの周りにいる人。肌の色は、同じですか。親子や兄弟でさえ、肌の色がまったく同じとはいえないでしょう。地球上には、様々な国籍や民族の人々が暮らし、国籍や民族で肌の色が大きく違っていることもあります。

ただ、この地球上に住む人間は、古くから肌の色に対する特別なこだわりを捨てきれずにいるようです。残念なことに、色による序列化や重大な差別事象が今も見受けられ、ときには国際的な対立や紛争につながってしまうこともあります。

日本でも肌の色へのこだわりから、2015 年のミス・ユニバース日本代表に選ばれた女性に、一部で批判の声が上がりました。

日本人の母とアフリカ系アメリカ人の父を持つ彼女は、いわゆるハーフ。幼い頃「色がうつるから」と遠足や運動会で手をつないでもらえず、肌の色にコンプレックスを持っていた彼女が、ハーフとして初めて日本代表に輝きました。

批判の声は、その彼女の肌の色や目鼻立ちから「日本代表にはふさわしくない（日本人らしくない）」といったものでしたが、彼女はこの批判を「人種問題について提起するチャンスと考える」と前向きに語り、批判の声をかき消す勇気ある言動を示しました。

日本人らしい肌の色とは、何色でしょうか？肌の色へのこだわりが差別や先入観を招かぬよう、「その人自身」を認め、多様性を受け入れる心を忘れてはいけません。